今週の格言「旅立ちの日に②」　N0.２６

前号に引き続き、「式歌」「旅立ちの日に」について書きたいと思います。今回は、歌詞についてその意味と情景を解説します。

歌詞は、単純な言葉を繋いでいるので全体的には分かりやすいですが、意味で分かりにくいものがあるとすれば「山並みは　萌えて」かもしれません。「山並み」とは「山々の連なり」。「萌える」とは「草木が芽吹くこと」。「白い光」はおそらく、朝のまぶしい光でしょう。すると、視線が「朝の光」→「山々」→「はるかな空の果て」と段々と遠くのスケールの大きなものへと移っていくのがわかると思います。希望を感じさせる出だしです。他には「意味もない　いさかい」の「いさかい」は「けんか」や「トラブル」のことです。その上で、この歌のそれぞれの言葉はすべて「飛び立つ瞬間」の場面だということが言えると思います。「限りなく青い空に 心ふるわせ自由をかける鳥よ 振り返ることもせず」の後に「飛び立て！」という激励が入るでしょうし、その後の「勇気を翼に込めて 希望の風に乗りこの広い大空に 夢を託して」というサビの後にも、同じく「飛び立て！」という言葉が入るでしょう。２番では視点が切り替わり、見送る側の目線から、飛び立つ側の目線での歌詞となります。一つ一つ、この場から飛び立つにあたっての気持ちの整理をつけていった上で、最後に力強く「今別れの時飛び立とう未来信じて」と心を決め、大空へと飛んでいく最後の呼びかけでこの歌は締めくくられます。「飛び立とう！」というのは自分自身を奮い立たせる言葉であると同時に、一緒に飛び立つ仲間たちに向かって呼びかけている言葉だと言えるでしょう。もうおわかりだと思いますが、義務教育を終えて、新しい世界に向かって旅立つみなさんにエールを送る、そしてみなさんの思いを胸に秘め、頑張る決意を表明する歌です。希望を込めて元気に歌い上げてほしいと願います。ここまで書いて、先生はあることに気づきました。大東中の校歌を思い出してください。「山脈藍に　草萌ゆる」「ああ　明日へと羽ばたく」「朝より朝をリレーしよう太陽になっていそしもう」というフレーズが、「旅立ちの日に」の歌詞によく似ている、同じような意味が込められていると気づきました。みなさん、校歌を歌う機会も少なかったですが、是非校歌の意味を思い浮かべながら、一緒に旅立つ仲間と、自分に、力強くエールを送るつもりで歌いあげてください。

旅立ちの日に

作詞:小嶋 登　作曲:坂本 浩美　編曲:松井 孝夫

白い光の中に　山並みは萌えて
遥かな空の　果てまでも　君は飛び立つ
限りなく青い　空に心ふるわせ
自由をかける鳥よ　振り返ることもせず
勇気を翼にこめて　希望の風に乗り
この広い大空に　夢を託して

懐かしい友の声　ふとよみがえる
意味もない　いさかいに　泣いたあの時
心通ったうれしさに　抱き合った日よ
みんな過ぎたけれど　思い出強く抱いて
勇気を翼にこめて　希望の風に乗り
この広い大空に　夢を託して

(※)今　別れの時　飛び立とう　未来信じて
　はずむ　若い　力信じて
　この広い　大空に

(※)繰り返し